協働パイロット事業（Ｈ２０）企画提案書

団体名：ＮＰＯ法人三保の松原･羽衣村

1.　事業の名称

メインテーマ三保の松原まるごと環境博物館（環境学習と環境整備活動のネットワークづくり）
サブテーマクローズアップ羽衣海岸名勝鎌ヶ崎（天女舞う三保の松原の再生と名勝の復活をめざして）

2.　事業方針（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください）

かって松原は人間と共存、共栄していた。松原は美しい景観を生んだだけでなく、人や港を波風から守り、こくも（松葉）やまびき、間伐の木々と枝は貴重な燃料で生活を支えた。山はもとより松原の木々も人間の生活を守り、人間の営みもまた松の保全に不可欠であった。共生という人と自然との循環はもはや中高年でさへ知らない時代となった。一方で環境問題は現代人の最大の関心事となり、自然環境の保護は重要と理屈の上で感じるは多い。三保の松原は国指定名勝であり、県立自然公園、羽衣伝説で名高い日本を代表する伝統の景勝地である。しかしそのことを知らない静岡市民はとても多い。夏になれば海に飛び込む風習すら失った現在では三保の住人でさえ浜に親しむ機会はない。市民の大半は都市生活者であり、市民と三保との接点は海岸の清掃活動やスポーツリクレーションの開催地、あるいは観光地としての選択に幸運にも選ばれないかぎり全くないのが実情である。

現在三保が直面している松枯れに対しても地域住民の意識は悲しいほど希薄で認識も低い。がなじみがなければ関心が薄いのは当然である。懸念されていた三保の松枯れは松原消滅の事態まで想定されるほどに酷い状況となり行政頼みだけではとても解決できない。現在に相応しい人間と木々の交わりを再構築するための仕組みを真剣に考え、松原の保全に実際に関わり、松原に郷土の宝として誇りと愛情を持つ人々を地域に育てない限り、どんな立派な法令があっても、法令を管理する行政の担当者と、自治会関係者やわずかなＮＰＯが取組むだけでは、これからの三保の松原の保全に何の展望も開けない。

幸いなことに、三保半島ほど環境学習に適切な地域はない。御穂神社、羽衣の松、鎌ヶ崎、清水灯台真崎、東海大学社会教育センターと続く松原には道がある。歴史的建造物や歴史と伝統を語る石碑が数多く点在。富士山に向って歩く松原は、本物の自然と世界に誇る景観を有しこれらを素材に自然科学から人文科学まで多分野の学習が可能である。羽衣村では中でも文化面に着目しルートの整備を関係各課に提言すると共に道に文学木札の設置、散策道の整備の手伝い、マップ作り、資料室づくりと取組んできた。また私たちに限らず東海大学など環境教育に熱心な学校施設や各団体がすでに存在している。しかしこうした個々の取組みを多くの市民に案内する窓口はなく、環境学習の情報は共有化されず、個々の努力で単発に行われている現状であり、外来者にしてみれば、三保のまとまった情報を見る場がない。

また他方、環境整備活動としての三保の海岸清掃をする団体は多い。が、三保の情報を発信する場がないので三保の環境学習に接することは稀であろう。こうした環境整備活動を松原の整備にも移行させ、環境学習と環境整備活動を兼ね備えたプログラムを提案し、情報を発信、ネットワークしていく必要がある。この取組みが、市民に松原に親しむ機会をもっと提供し、結果、地域の風土に誇りと愛着を持つ人材を育て、三保の松原を保全することに繋がると考えている。急がば回れである。

法令があっても関係各課が縦割りにあったため責任の所在が不明瞭で法令が機能せず、今日の状況に至った。が行政側もすばやく協議会を立上げ三保の松原の保全に大変な意欲を見せている。私たちも行政に寄りかかるばかりではなく、三保の松原を自分たちの財産と考え、自分たちにできる方策を培い、これからの未来を担う子供たちや人材を育てと三保の松原の歴史の継承と保全活動に寄与したい。

3.　協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

羽衣村の役割（実行出来ること。）サブテーマであるクローズアップ羽衣海岸鎌ヶ崎の遂行

①三保の松原の環境学習の整理と環境学習の協力者を捜す。

②三保の松原のテキストの企画づくり。ポスターづくり。三保の松原文学百撰、羽衣伝説の絵本などすでにある。松原の歴史や松の生態を詳しく説明した環境学習のものを加える。

③環境学習と環境整備を加味したパイロット企画の提案とその遂行。
（クローズアップ羽衣海岸鎌ヶ崎）

④三保の松原まるごと環境博物館のホームページの企画。
（羽衣村のホームページがあるのでこれを利用する。）

⑤三保の松原散策マップの配布。
（都市計画課が作ってくれたものがある。）

⑥三保地区の学校及び事業所への働きかけ。

⑦自治会への働きかけ。

⑧三保の松原保全育成連絡協議会への橋渡し。

⑨しずおか体験教育旅行との連携。

⑩観光業者への呼びかけ。まるごと博物館のＰＲ

行政に望むこと。　企画遂行のため援助とまるごと環境博物館のパートナー

①三保の松原まるごと環境博物館の窓口となる課をつくる。１名スタッフを希望。ホームページの管理。三保の情報の収集。企画参加者を募り、参加者に三保の松原の整備に参加した証明書を交付する。

②松原の環境整備活動のための指導員の派遣と整備計画の策定作業を協働して行う。

③清掃用具の貸し出し。整備後の松や枝その他のごみの処分

④松葉の有効利用の研究。整備後に出た松や枝などバイオの有効利用とその研究

⑤教育委員会の後援。市内の学校へのＰＲ。

⑥三保の松原のテキストとポスターの製作と学校への配布。

⑦三保の松原まるごと環境博物館のホームページの製作。
（但し、羽衣村のホームページがあるのでこれに手を入れる）

⑧観光課との連携。活動を広いものとするため。

⑨三保の松原まるごと環境博物館のボランティアの育成。

⑩マップの在庫が切れたときの増刷。

⑪この事業の事務局をおくようなキーステーションを作る。
（昔計画された羽衣資料館の予定地が今もある。三保の松原資料館とし、環境学習に寄与する。）

⑫この事業に協力、援助をしてくれる企業を探す。

4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

長期目標	三保の松原まるごと環境博物館（環境学習と環境整備活動のネットワークづくり） 三保の松原まるごと環境博物館として現在三保の松原に点在している人材、施設、事業企画の連携を強化し行政との協働をはかり三保全体を連帯させる。短期目標である企画を試験的に重ね、長期の整備活動を可能にし、市民参加の保全を目指す。三保の松原の保全と文化の継承がネットワークされ松原の整備が計画的に目的をもって遂行され、郷土の財産である三保の松原を守り、三保の松原に誇りと愛着を持つ市民を育てる。
短期目標	クローズアップ羽衣海岸鎌ヶ崎（天女舞う三保の松原の再生と名勝の復活をめざして） 環境整備活動と環境学習を兼ねたプログラムの提案として羽衣海岸の鎌ヶ崎（和田英作などの画題となった三保一番の景勝地）を中心に整備活動と環境学習を試験的に複数回行う。環境学習についてはテキストを配布し、短時間のなかで三保の松原を学べるよう工夫する。整備の手法としてはアドプト制度を踏襲したい。参加者に自分の管理する松を決めてもらい縁組する。縁組した松の周辺の整備をする。同様の手法で違う団体にも主催してもらい、多くの人が三保に関わりをもてるようにする。こうした企画を何度か積み重ね、続け、長期目標である三保の松原まるごと博物館を多くの人に理解してもらいまとめあげていく。

5. 事業計画　クローズアップ羽衣海岸鎌ヶ崎　（名勝鎌ヶ崎の整備と環境学習）

①連携グループを探す。三保の松原のテキストとポスターを作る。
②窓口となる行政側の課を決める。
（但し、パイロットとしての企画は羽衣村で行う。行政におんぶはしないがサポートは希望する。）
③三保の松原の保全計画を策定できる専門官と、地域に居住する松の保全を実践出来る人材を探す。できれば、庭師　造園家、植木屋などの職人衆を望む。松の植生に現場を踏んでいる人が良い。
④三保の松原の保全計画にそって、整備活動日をきめ、参加者を募る。鎌ヶ崎の整備活動をする。ポスターを配る。間伐などが可能であれば関係の課の許可申請をしておく。整備の段階としては以下の通り。
1　参加者に鎌ヶ崎の景観の特性を学習してもらう。かっての景観を教える。ポスター絵画など
2　自分の担当の松を決め縁組する。名前をつけ記録登録する。大きな松はグループで管理しても良い。
3　縁組した松の年数を想像し、状態を記録する。
4　縁組の松の周りの草を取り除き、松葉をとり綺麗にする。まびき間伐が出来ればその手伝いをする。
5　許可がおりれば活力剤を入れる。
6　二ヶ月に一回松の観察をし記録する。（参加者が近隣の場合）
7　北原白秋、与謝野晶子の和歌を紹介する。和田英作の紹介をする。
8　じゃもん石（ぶどう石）を拾わせ、安倍川の説明をする。
9　テキストを進呈し読むように促す。松が人間の健康にも良いことを教える。
１０参加証書を渡す。
１１松の異変に気付いたとき、連絡させる。連絡先を教える。（参加者が近隣の場合）
⑤　参加者は松原に近い学校の子供たちや、大学生やスポーツグループが良い。
⑥　これらの整備の様子をホームページに記録し、別の参加者を募る。
⑦　二ヶ月に一度の割合で整備活動をするので参加者は固定しなくても良いがすべて参加しても良い。

6.　スケジュール

6月	連携グループとの現地鎌ヶ崎見学　　場合によっては整備活動をする。	
	参加者の募集をする。テキストを作成する。テキストは一年かけてまとまった形になるようにする。どういう内容が使用者に喜ばれるか考える。 整備の指導員を養成。数回整備に参加していれば指導員になってもらえる。 清掃の仕方、ごみの出し方の指導。	
7月下旬	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする。	①
9月	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする。	②
１１月	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする。	③
１月～2月	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする。	④
3月上旬	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする	⑤
5月下旬	参加者と鎌ヶ崎周辺の整備をする。 整備活動のまとめをする。	⑥

整備活動の実施日は参加者のスケージュールとの都合で決める。羽衣村は観光業者もいるので今までは休前日は避けては来た。６回あるので参加者が多ければ平日も良いと思う。また６回の整備活動に常に人が集まるとは思えないので羽衣村のいる人数の中でこなすこともある。
平成21年度、引き続き整備活動を行い、三保の松原まるごと環境博物館構想を肉付けしてゆく。

7.　実施体制および主要スタッフの経歴

高木桂蔵	静岡県立大学教授名誉教授　国際ことば学院校長
宮城島史人	羽衣村理事長　しずおか体験旅行事務局長 東海大学社会教育センター営業チーフリーダー
遠藤まゆみ	羽衣村事務局長　静岡県文化財団評議員　羽衣ホテル女将
深見幸男	羽衣村理事、会社役員
水越秀成	民宿天人の家経営、静岡コンベンションビューロー清水支部海浜植物委員長
藤浪秀子	羽衣村理事　元市立中学校国語教諭　園芸農家経営
望月喜美子	羽衣村理事　松原荘ホテル経営
門口行子	羽衣村理事　元三保小学校事務員
長澤知子	羽衣村理事　市職員
坪井雪子	羽衣村理事　海外生活が長くフランス語、英語が堪能

なお、高木桂蔵先生以外はすべて三保在住者

8　特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

私は三保の松原の風土を愛します。自然歴史を愛します。ここから生まれた文学、芸術、芸能を愛します。三保の松原と文化の輪を全国に、そして世界に発信します。平成9年につくった羽衣村憲章である。この精神に則りこの 11 年間事業を遂行して来た。興津清見寺との歴史を偲ぶ富士遊覧の世界、能「羽衣」と琉球舞踊「銘刈子」の共演である琉球駿河羽衣交流会、県立美術館での描かれた三保の富士展、静岡アートギャラリーでの名勝三保の松原展、三保の松原の風光と文学展、翔洋ホールでの平野啓子語り「羽衣」、テルサの三保の松原羽衣塾での子供たちのための能「羽衣」、同時に散策道の文学木札設置やマップ作り、行政への名勝鎌ヶ崎の整備の要望。羽衣資料館の設置。試行錯誤の連続ではあったがどれも市、県のサポートを受けながらよちよちと遂行してきた。その事業の内容は世間から見ればさほどのものではなかったとしても、時間に余裕のないメンバーが愛する三保の松原の価値をもっと知ってもらいたい一身で続けた。三保の松原が生み出した文化についての掘起こしには少し貢献したと自負している。がその事業の中で本当はしなければならないのに実施出来なかったのが定款5条の三保の松原の環境保全の啓蒙と教育の事業であった。5年ほど前県環境審議委員会において県立自然公園である三保の松原の規制区域の大幅な格下げがあった。その理由は「もはや県立自然公園の態をなさない」という理由であった。私は委員長のこの言葉を一生忘れることはできない。これだけの規制を法令でかけながら、その法令を司る最高の機関が、態をなさなくなった自然公園の実態に何の疑問も悔恨も持たず書類上の文言を変える感覚であっさりと審議を通す。折戸地区の松原はこれにより伐採は可能となったと理解している。近い将来「もはや、三保の松原など自然公園の態をなさない」と三保の松原が滅ぶことに何の感慨も情感もなく高らかに宣言されるのではないかと戦慄を覚えた。「県立自然公園日本平」を「県立公園日本平・三保の松原」に変更するよう三年の歳月をかけ執拗にこだわったのも、このままでは三保の松原は地名でしか名が残らない事態になるのではないかという強い危惧と不安であった。現実に松原の整備不足は明らかであった。数年前、空中散布を突然やめ、そのための対策もないのも気がかりであった。しかし、保全のための既存団体もあり、保全に関わる法令はあり、関係した行政も多すぎるほどある。その中で羽衣村が一体何をどうしたらよいのか。動けば叩かれる事態になると予測もできた。しかし全ては何もしてこなかった自分への言い訳である。杞憂は現実になった。ここ数年二百年、三百年クラスの松がどんどん枯れ伐採された。平成 14 年県道路企画室と協働で姿の美しい樹齢の長い松の前へと白秋や晶子の歌碑の看板を建てたが、松が切られ明るい空き地になった空間に看板だけがポツンと建っている。昨年だけで 1800 本が伐採された。申し訳が立たない。ただ、ただ申し訳ない。松に育ち、松に励まされ、松に学び、松に守られてきた私たちは松を守ろうともしなかったのである。

昨年度、松枯れ対策の事業にはじめて踏み込んだ。予想どうり松の保全だけを真摯に取組む以前の難題、難問が山のようにある。今回提出の企画は簡単なものではない。特に、三保の松原まるごと環境博物館は協働が不可欠である。しかしこのような仕組みを作らなければ三保の松原の将来はない。三保を愛する人は実は多い。何かをしたいと必ず思っている。何をすればいいのかわからないだけである。自分たちが守らなくて、誰も助けてくれない。傍観者や批評家でありたくない。人のせいにしてこの難事から逃れたくない。誰のものでもない、三保の松原は天が私たちにくれた私たちの故郷の宝物だから。富士山は登録などされなくても間違いなく世界遺産である。しかし、登録されたならば、鎌ヶ崎の富士は必ず世界に発信される。三保には大きな道が入り、間違いなく変化を強いられる。でも伝統の景観美は変えたくない。それは過去のものではなく、未来のものだから。御穂神社参道.、神の道には大掛かりな再整備がされ、間違いなく脚光があたる。だからこそ、松の保全に努めたい。神の道は羽衣の松、鎌ヶ崎と一体のもので、松あっての神の道だから。助けてほしい。私たちもがんばります。

協働パイロット事業（Ｈ２０）見積書

団体名：ＮＰＯ法人三保の松原・羽衣村

天女舞う三保の松原の再生と名勝の復活をめざして 企画のタイトル：クローズアップ　羽衣海岸鎌ヶ崎（名勝鎌ヶ崎の整備と環境学習）

項　　目	金　　額（円）	説　　明
参加者へのテキスト	９０，０００	６回×30名×５００円
名勝鎌ヶ崎の再生の啓蒙啓発と参加呼びかけのためのポスター	１００，０００	岡田紅陽か和田英作の著作権使用料（製作経験あり）鎌ヶ崎の三保の富士の作品で世界的に著名
参加者募集チラシ	２４，０００	単色印刷
羽衣村スタッフ以外の指導員へのお礼交通費含む	２４，０００	６回×２名×２０００円
小　計　Ａ	２３８，０００	
消費税　Ｂ＝Ａ×0.05	１１，９００	
合　計　Ａ＋Ｂ	２４９，９００	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金　　額	主な使途
羽衣村自己負担	１５０，０００	ポスターの印刷代　行事傷害保険加入料
寄付収入	５０，０００	参加者の飲料など

（様式４）

企画提案の概要書

提案団体名	ＮＰＯ法人三保の松原･羽衣村
企画案のタイトル	天女舞う三保の松原の再生と名勝の復活をめざして クローズアップ　羽衣海岸鎌ヶ崎（名勝鎌ヶ崎の整備活動と環境学習）
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	瀕死状態の三保の松原に今必要なのは松原の整備と整備活動の核となる組織のネットワーク化及び整備活動を希望する市民とのネットワーク化である。比較的盛んな海岸清掃の整備活動を松原の整備に移行していけば松原に人の手が入り整備も促進され三保の松原に親しみを持つ市民もふえるはずだ。せっかく三保へと足を運ぶのなら三保ならでは環境学習のプログラムも取入れ三保の松原を整備する動機付けも大切である。一人の力は小さくてもその活動が尊い三保の環境と景観の維持に大きく寄与していることを認識してもえる。三保を思う人は地元にも多い。ただ何をどうしたら良いのか分からないのである。環境学習は故郷を思う心へとつながる。松原の整備活動はまったなしの状況で迅速に立ち上げなければならない。私たちに出来るのは小さなモデルである。がとにかく始めてみたい。続けること。それと鎌ヶ崎のＰＲが必ずネットワーク化へと弾む。出来ることから始めたい。
金額	

≪注意事項≫

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- html で表現できない複雑な表現方法はご利用できません。